

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人大空会児童発達支援なかよし園		
○保護者評価実施期間	令和7年9月22日		～ 令和7年11月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年12月19日		～ 令和7年12月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・情報発信(療育の見える化)を積極的に行い、安心・安全な療育が提供できている。	・なかよし園での日々の様子、療育活動(集団・個別)の内容を、Instagramにて発信を行っている。 ・集団活動、個別活動は、色々な活動内容を提供できるよう、担当制にしている。 ・活動内容については、個別支援計画書や5領域との関連付けを行うことをポイントとして考えるようにしている。	・SNS担当が一人しかおらず、毎日の発信が難しいときがあるが、積極的に更新していきます。(他の仕事との兼ね合い)
2	・職員配置が手厚く、園児一人ひとりに寄り添った療育が行われている。	・園児10名に対して、職員(保育士・児童指導員・児童発達支援管理責任者)5名を配置している。	・食事、排泄、安全面において、一対一対応が必要とされる園児の増加傾向に対し、職員の療育スキルの底上げを図っていきます。
3	・活動プログラムが飽きないように工夫していること。	・新たにクッキングや工作、プール療育といった活動を提供している。 ・支援者を担当制にすることで、活動のマンネリ化を防いでいる。 ・駅が近い立地を活かし電車やバスを活用した園外保育を積極的に行っている。	・継続的、長期的な目標を立て、活動に対してねらいや目的を明確に持って提供していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化が進み、壁紙の破損が目立っていたり、バリアフリーでない建物のため、園児が過ごしやすい環境とはほど遠い環境になっている。(特に安全面)	・障害特性の中にある「細部への注目」という部分で、剥がれかけた壁紙が気になり剥がしてしまっている。 ・バリアフリーでない建物を療育施設をして運営している。	・園児の目につかないよう、掲示物で隠す等の工夫する。 ・危険な階段の昇り降りについては、職員の見守りを強化し、かならず手を繋ぐ約束を徹底していく。
2	・質の向上を図るため、研修会の機会や積極的に専門家や専門機関等からの助言を受ける機会が少ない。	・正規職員が個別に研修を受け、研修報告会や資料の回覧を行うことで全職員に対する研修としている。 ・パート職員も多く在籍しているため、研修時間の確保が難しい。	・必要に応じて、外部からの専門家や専門機関等からのアドバイスを頂く。
3			